

# 平成22年度高鍋町事務事業評価表

## ◎事務事業の概要

事務事業名	公園管理事業				開始年度		
基本目標	魅力的で親しみのある公園・緑地の整備				終了年度		
担当課(局)	建設管理課	担当係	管理係	記入者	金丸 寿生	評価者	芥田 秀則
21年度決算	9,719	千円	22年度予算	11,368	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	3,497 千円		22年度人件費	3,471 千円		事業従事者数	0.48 人 0.48 人

## ◎事務事業の目的・内容

事業の目的	公園の維持管理を行い住民に快適な憩いの場を提供する。
事業の内容	公園の円滑な活用のための使用占用の許可・その他公園に関する事務、公園施設の維持管理(点検・補修)、公園植栽の維持管理(草刈り・剪定・薬剤散布など)

## ◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 公園内の事故防止	公園内事故0件
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 管理公園数	都市公園16箇所(自治公民館との協働管理9箇所) 地域公園4箇所(自治公民館管
	2 公園の協働管理	自治公民館に機材等を貸し出し管理を依頼。ゴミ等の収集を町で行う。
	3 公園の維持管理	月1回の遊具の点検 草刈り・剪定・補修等

## ◎達成状況

		指標名	単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	公園内の事故防止	目標値		0	0	0
		実績値		0	0	
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
	0	目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	管理公園数	目標値	回	20	20	20
		実績値		20	20	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	公園の協働管理	目標値		13	13	13
		実績値		13	13	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	公園の維持管理	目標値		12	12	12
		実績値		12	12	
		達成率	%	100.0%	100.0%	

## ◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	都市公園法第2条の3により、地方公共団体が管理するものである。総合運動公園は社会教育課で管理、農村公園を産業振興課が管理している。既に公園が開設されており、事業を取りやめた場合公園の機能を失うことになる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	地区住民のふれあいの場として、また、グランドゴルフなど健康向上の場として多くの人に使用されている。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	事故等の報告もなく、地域住民のふれあいの場として効果は上がっている。遊具等の施設の老朽化が進んでいるため、削減の余地なし。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	20年度より、街区公園10ヶ所の内8ヶ所と、児童遊園1ヶ所を地域の公民館に草刈り等の管理をお願いした。残り街区公園2ヶ所についても地域住民に管理を依頼したい。海浜公園の多目的広場についても公園利用者と協働で草刈り作業を行っている。

事務事業名	公園管理事業	担当課(局)	建設管理課
-------	--------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	現状の予算での維持管理は非常に厳しいが、今後も地域と一体となり最低限の管理をしていく必要がある。	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
				現状維持			○	
				縮小				
				廃止				
	廃止	縮小	現状維持	拡充	コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎管理計画の樹立が必要である。 ◎街区公園は地区で管理し、都市公園は町で管理する方向でお願いしたい。 ◎公園の管理は町としてやるべき事業である。舞鶴公園の管理に問題は残るが、街区公園など地区への委託など協働でできる部分の増加により、経費節減が図られないか。 ◎子どもの遊び場の確保を積極的に進めていく必要がある。町民アンケートや議会でも、図書館の充実とともに特に指摘が多い。「子どもがにぎわうまちづくり」に向け、優先して取り組む事業だと考えている。 ◎予算の拡充は難しいが、現状のスタッフで創意工夫することで事業の拡充は図れるのではないかと考える
	コスト	現状維持	